

会山行報告書

通算山行NO	No. 338B	報告者	後藤隆徳
年 月 日	2007年02月11日(日・曇り風雪)	2万5千円	焼岳
山 名	北アルプス・輝山(てらしやま・2063m)		
温 泉	福地温泉・平湯・中の湯・沢渡温泉と		
体力度=4・やや厳しい 技術度=5・滑りは難しい 読図=易しい・赤ペンキあり 藪漕=藪と言うより、木立が多い 道標=全く無い 頂上の展望=風雪でなし(晴天ならば凄いいい)			
山スキーは藪が当たり前			
コースと タイム	福地温泉7:30-1651m峰-1761mの鞍部-1866m峰-輝山頂上11:30~4 5-福地温泉14:30-沢渡		
標 高 差	福地温泉約1000m~輝山2063m =約1100m(上り返しあり)		
参 加 者	CL・後藤隆、加藤秀子(1200mまで)、三浦光治(1200mまで)		

静岡を出発時、何と気温は17度だった。「ゲエ〜、雪はあるのか?」。一抹の不安が脳裏をかすめる。兎に角、今季は何処のスキー報告を聞いても、「雪がない」ばかりだ。

その日は結局「沢渡」の佐藤さん宅の世話になる。お母さんは病気もすっかり回復し、福々とした体に戻った。ついでお父さんも太ったのは、ご愛嬌だった。昨年の槍以来の再会にお父さんと大いにやってしまったのは、言うまでもない。

翌朝、チラチラと雪が舞っていた。安房トンネルを越えて、福地温泉に向かう。やはり雪は少ない。奥飛騨の豪雪地帯でこれだ。杉林の「地」が見える。シールで上るのにギリギリの積雪だった。

登山口の標高約1000mの北尾根末端には、すでに何台かの車が止まっていた。随分の人気だが、その訳は先日、有名な金沢の医師がここをインターネットで紹介したからだ。結果的に少雪ということもあり、下部は酷い「藪」で、そこを医師が上れば「〇〇医者」になってしまう。(スママセン、笑い)

その中に三浦君の姿もあった。三浦君の山スキーは、昨年の怪我以来。さあ、張り切って行こう。最初からシールで上る。先頭はさっき駐車場にいた福井の連中。雪が少ないので、藪が結構露出している。まあ、スキーにはさほど問題ないが、...



急な斜面を上りきると地図上でもハッキリしている尾根に出る。それほど広くはないが特に問題になる程ではない。

この辺りから加藤・三浦が遅れだす。下で声がするので振り返ると三浦が尾根からコケたようだ。尾根の下は風下なので雪が深く中々上がれない。

やっと上がったが、ここから下山すると言う。理由を聞くと「この樹間では帰りがとても滑れない」と言う。加藤まで「私もとても無理なので降りると」言い出した。

この所、加藤は何だかんだで、途中放棄

が多い。元々、山スキーなんて整地に行く訳ではない。従って「未知」「困難」「冒険」「開拓」などの要素は当然多くなる。少くも苦労したから「万歳」では、はじめから山スキーなんてやらないほうが良い。

仕方が無い、ここからは一人で行く。雪山の単独は余り好ましくない。ただ、今日は入山者が多いので少し気は楽だった。

ここから一人旅が始まった。天気はハッキリせず、高曇りで時々雪が舞う。1651m峰に着いた。まだ先は長い。ここから一旦長い下りがあり、だだっ広い雪原に出る。

吹雪かれると分かり難い所だ。一人なので地形を頭に叩き込んでおく。先頭集団に追いつき、ここに皆結集する。しかし、ここからラッセルは一層、厳しくなる。誰も行こうとしないので、結局私が先頭を切る。膝上のラッセルだった。冷たい風雪がピューピュー梢を揺らす。ここはいいスキーが出来ると期待する。すでに上り始めて4時間が経過した。やや疲れを感じる。一人旅がそうさせるのだ。

他の連中は皆でワイワイやっている。まったくも〜。うちの若い衆は一体どうなってんだ。30分で頂上に着いた。展望がいい山だけど、今日は全く駄目。皆は雪のテーブルを作り昼食を始めた。

この寒いのにビアを飲んでいるバカヤローもいる。面白くないので、昨日諏訪SAで買った冷え切ったカレーパンを頬張りそそくさと下山。一人なので慎重に下る。吹雪けばしばし立ち往生。スキーはマアマアだったが、如何せん一人では張り合いがない。

簡単に先程の雪原に着き1651m峰に上り返す。ピークから西の尾根を下る考えもあったが、まあ止めといた。ここからは狭い尾根が続く。

横滑りを多用し何とか下る。下りきったところで加藤が車で待っていた。



1651m峰
セルフタイマーで撮影